

6. 現在までの課題とこれからの予定

本システムの課題の一つは、データ入力への負担です。あんしん連携ノートの活用状況や再発予防に対する効果を評価するためにはデータベースに登録する必要がありますことから、急性期医療機関に関してはデータ登録を必須としております。この負担を軽減するために、Webブラウザからの入力は簡便に行うことができる工夫に加えて、中央事務局によって代行入力を行う方法も検討しております。ただこうした負担がある中でも、院内のさまざまな職種で役割分担を行って運用をシステム化している医療機関では非常にスムーズに運用されており、モデルケースとなっていることから、定期的に開催される担当者会議において参加医療機関内で情報を共有して、効率の良い運用方法の検討を進めて参りたいと考えております。

もう一つの課題は、もともと心筋梗塞には連携パスが存在していなかったことから、急性期医療機関とかかりつけ医療機関とのネットワークが十分ではないということです。急性期医療機関でノートを発行しても連携できる紹介先が見つからず、急性期医療機関でそのまま外来フォローとなる場合も多々あります。試行参加医療機関リストを見ていただくとお分かりいただけるように、「かかりつけ医」としての参加医療機関がまだまだ少なく、循環型のパスとしての効果の確認はこれからという状況です。是非、心筋梗塞患者を外来でフォローされている会員のみなさまにはご参加いただけますと幸いです。

今後は10月より本格運用として、さらに参加医療機関を増やし急性期医療機関とかかりつけ医療機関との連携の数を増やすことを目指しております。連携が本格化することにより見えてくる新たな課題の解決や地域連携による心筋梗塞再発予防効果についても検討を行って行く予定です。また、現在は脳卒中あんしん連携ノートと急性心筋梗塞あんしん連携ノートは別冊になっておりますが、患者教育部分を共通とした合冊に向けての検討を開始しております。

7. おわりに

脳卒中に続いて「急性心筋梗塞あんしん連携ノート」についても、比較的順調に症例数が増加し、試行運用から本格運用へと進む運びとなりました。しかし、「急性心筋梗塞地域連携クリティカルパス」の目的を達成するための課題も多く、今後とも北海道医師会会員のみなさまのご理解とご協力をお願いする次第です。「急性心筋梗塞地域連携クリティカルパス」に関するご質問やご参加のご希望につきましては、下記事務局へご連絡くださいますようお願いいたします。

北海道地域連携クリティカルパス運営協議会
事務局連絡先
E-mail: hosnet@pop.med.hokudai.ac.jp
FAX : 050-3737-7066

お知らせ

新人看護職員研修の国民向けPRポスターの周知について

◇医療関連事業部◇

厚生労働省では、新人看護職員の技術等に不安感をもつ患者がいることも指摘される中で、新人看護職員研修により医療安全の向上が期待されることから、患者や一般市民に対して広報を行うことが重要と考え、国民向けPRポスターを作成しました。本ポスターは厚生労働省ホームページからダウンロードが可能ですので、下記ホームページをご覧ください。

記

厚生労働省ホームページ：新人看護職員研修PRポスター
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000050213.html>